

様式第2号（第8条関係）

審議会等会議録

会議の名称	加須市農業振興ビジョン策定委員会
開催日時	令和2年12月22日（火） 13時30分 から 15時00分まで
開催場所	加須市役所5階 504会議室
議長氏名	委員長 小倉 和夫
出席委員	小倉 和夫 委員 角田 大輔 委員 榎本 春江 委員 島田 和男 委員 小川 保夫 委員 山下 達男 委員 角田 光穂 委員 矢島 久史 委員 山中 勝裕 委員 （9名）
欠席委員	松本 信一 委員 塚田 静男 委員 儘田 兼一 委員 眞中 紀 委員 秋山 茂 委員 （5名）
会議次第	1 開 会 2 あいさつ（委員長、市長） 3 議 事 （1）第2次加須市農業振興ビジョン素案について （2）その他 4 閉 会
会議資料 の名称	第2次加須市農業振興ビジョン素案
会議の公開又 は非公開の別	公開
非公開の理由	—
傍聴者の数	0人
説明者の 職・氏名	農業振興課長 駒宮 敏之

様式第3号（第8条関係）

発言者	会議の内容(発言内容、審議経過、決定事項等)
横山主幹 (事務局)	1 開会 会議の公開及び公表説明 2 委員長あいさつ 市長あいさつ ～市長、他の公務により退出～
小倉委員長	3 議事 はじめに、次第の議事（1）第2次加須市農業振興ビジョン素案について、事務局より説明をお願いします。
駒宮課長 (事務局)	（1）第2次加須市農業振興ビジョン素案について説明
小倉委員長	ただいま第2次加須市農業振興ビジョン素案についての説明がありました。委員の皆さんからの御意見・御質問等を伺いたいと思います。御質問、御意見はございますか。
矢島委員	2 ページに「埼玉農林業・農山村振興ビジョン」と記載がありますが、実は今年度が最終年度でして、埼玉県では令和3年から令和7年度の5年間の次のビジョンの策定に入っているところでして、まだ決定はしておりませんが「埼玉県農林水産業振興基本計画」という名称で現在作成が進んでおります。 来年の4月からこの基本計画に基づいて県の農業施策が進んでいくというような流れになっており、また加須農林振興センターでは、北埼玉版というような地域に合った基本計画を作っていくというような予定であります。
小倉委員長	他に御意見ございませんか。
山下委員	何点かお聞かせいただきたいと思います。 52 ページの「農業経営の安定化」の中で経営所得安定対策を推進するということが書いてありますが、市として、この経営所得安定対策や収入保険の関連をどのように見ているのでしょうか。 また、今後、米価の下落や米余りの現象も続く中で、水田農業をきちんと守っていくとか、そういった目指す方向性などがあまり計画に触れられてない気がします。 それと、57 ページあたりから、現状に対して目標とする

	数値が2025年と2030年で横ばいのような指標も何点か見られますが、横ばいの指標というのは目標としていかなものかと思います。
駒宮課長	収入保険制度や経営所得安定対策については、ご指摘のとおり市としても推進することは必要だと考えています。 加須市は水田地帯なので、稲作を守っていくという基本的な考え方はありますが、経営安定対策、需要に応じた生産の推進などにつきまして、改めて考え方についての記述を検討いたします。 それから目標値については、例えば57ページの新規就農者の確保という取組項目の達成目標が、青年等就農計画認定者数は単年度の目標で10人としています。認定期間の5年が経てば認定終了となるため、最低でも毎年10人は維持していこうということで、ここは横並びになっています。 その他の達成目標についても、再度精査いたします。
山下委員	農業再生協議会や水田農業推進協議会での生産の目安を入れていないと、今後の農業をやっていくなかでも大変だと思う。どんどん米価が安くなっている中で、きちんと政策を守っていかなければ厳しくなるのが目に見えているのだから、そういうこともきちんと計画の中に落としていくべきだと思う。
駒宮課長	水田の生産調整の件も含めたことについても、ビジョンに加味させていただきます。
小倉委員長	実際の水田協議会のいろいろな案件についても、農協とかその協議会の人だけで協議してもなかなか意味がない。もうちょっと幅を広げて、今後の目標ぐらいまで踏み込むようなことをしないと、誰が責任を持って、誰がこの加須の農業を担うのかということにもなります。 将来的に農業の担い手としての目のある人をいかに拾い上げるかっていうか、そういう努力をしていかないと、本当に農業の魅力がだんだん薄れてしまう。 今まで経験を積んできたベテランの農業経営者が、次の担い手を手助けするような、次の後継者がそれに取り組みやすい、入りやすいような環境づくりっていうのも必要だと思います。
角田(大)委員	農業ビジョンだけでなく、農業の取り組みなどを知らないっていう人が多分いると思います。何かその情報を、若い人たちであつたらフェイスブックなどを活用して、加須市の農業などについても興味を持ってもらうような取り組みをし

	てもいいのかなと思います。
小倉委員長	若い人の横の広がりを導入するというのは、ある程度農業政策に関わった以上は、やっぱり推進していかななくてはならないですね。 また、10年間で860ヘクタールの加須市の農地が減少しているという現状、太陽光発電での農地転用も増えていますが、耕作放棄地が減って太陽光発電になるのがいいのかどうか分かりませんが、あまりにも農業が置かれる立場が弱い、農地そのものの評価が低い、そういったものを打開するために太陽光で何とか維持させようっていうところにも、何か不安を感じるところがあります。
榎本委員	農業者の年齢も高くなってきて辞める方も増えています。女性部でも半分以上の方が高齢の女性部員なので、若い方が入ってくればいいなっていう考えもありますけど、なかなかそのような機会がない。 若い方が就農すれば、その奥さんたちも農業を手伝って増えてくるのではないかなと、そのようになってくれるといいなと思います。
小川委員	私が認定農業者になったときに年齢が私よりも上の方がいて、まだ認定農業者でやっていると思います。今何歳かわかりませんが、農業は定年がありませんのでね。 年齢的に上がっていますので認定農業者が増えない。50歳以下が何人ぐらいいるのか分かりませんが、70歳以上も結構いると思います。 今後も関係機関で認定農業者の指導も含め、一生懸命やってもらえればいいと思います。
小倉委員長	今までは、集積して大規模農家を育成するというのが一つの目標みたいな面もありましたが、やっぱり適正規模でみんなが安定した経営ができるような規模に。外国の真似をして規模を大きくすればいいということではないと思います。 特に加須市は、条件的には水田も平らですし、集積もしやすい。ただ集積、集約、効率化だけを目標にしても、肝心の担い手が理想的な経営をしていけないと。魅力が発信できないものはやっぱり衰退してしまう気がします。
矢島委員	今、農業支援部として一番進めているのは、4ページにも書かれているスマート農業の推進というような形になっております。 県では、スマート農業アクションプランというのをつくりまして、今年度はハード事業ですけども、2案件が加須農林

振興センター管内で事業採択されまして、一つが加須市の方で全自動の田植え機、もう一つが行田市の方でART基地局という精度をかなり高めるための基地局というのが事業採択になりまして、来年度から3年間かけて実証事業を実施する予定です。高価な良いものを入れて、どれだけの費用対効果が生まれるか、スマート農業がどのように活用できるのかというのは3年間かけて実証する予定になっています。

スマート農業をやったから全ての農業の課題が解決できるわけでは当然ありません。ただ、人材不足とかいろいろな課題がある中で、うまくスマート農業を有効活用して埼玉の農業を進めていければといったように農林振興センターとしては考えているところです。

角田(光)委員

先ほど委員長から適正規模の話がありましたが、今、担い手の後継者の若手がどんどん面積を増やしていますけど、やっぱりキャパ、上限があると思います。

そういうキャパがあるという中で、加須市の農地をみんな維持していくためどうしようかっていうことになる、今までみたいに規模拡大だけではなくて、小規模農家や兼業農家みたいな小さいところで維持していくというようなものも、何かこの中で触れていったりすると、それも身近な方法であると思います。

小倉委員長

確かに専業農家が大規模にやるだけが維持保全ではなくて、農地を守ることになりますと、やっぱり大勢の人の力、二種、三種の兼業農家も育成していくっていう部分も非常に大切だと思います。

確かに兼業農家で、大変な面もありますけれども、それもこのビジョンの中に生かせればいいと思います。

山中委員

埼玉県でも、今、計画の見直しで県民のコメントをいただいているところですが、確か、そちらの方でも小さい単位の農業を、やっぱり計画の中に盛り込んで、見込んだほうがいいのではないかというような意見もあると聞いておりますので、そういった小さい単位の農業も、加須市として大切にしていくことは大切ではないかというふうに私も思うところです。

それと、収益性の確保等で中川上流地区の水田農業における経営の安定化を図るというような施策も入れていただいておりますけども、こういったものを活用しながら先ほどのお米余りとかの対応等も、今後目指していただければと思います。

島田委員

今、本当に農業が厳しい状況で、地元の生産者部会も高齢

	化が進んでおりますので、あと何年か経って、人が減ったらどうなるかと。また、イチゴの出荷もかなり減ってきております。 私ができることは、どんどん仕入れて売ることですけども、ただその生産者が、よりやる気の持てるような流通があって、やはり大利根のイチゴはかなり評価も高いものですから、お米もそうでございますけども、このイチゴをこのまま人が減ってしまうような状況を見ているだけでなく、伸ばすような形に取り組んでいただければと思っております。
小倉委員長	以上でご意見、質問の時間を終了させていただきます。 事務局におかれましては、出されたご意見を、検討いただいて、少しでもこのビジョンの中に反映できるようにお願いします。 次に、次第の議事（２）その他について何かございませんか。
横山主幹	今後の予定についてお話しさせていただきます。 本日いただいたご意見を反映しまして、再度修正加えまして、第３回の策定委員会を年明けの１月末から２月上旬頃を目途に開催を予定しております。 第２次加須市農業振興ビジョンの最終案について、そちらで再度ご審議をいただきまして、２月には策定、公表という予定で進めて参りたいと思います。 第３回の策定委員会の開催日時については、また改めてご案内させていただきますので、皆様のご協力をお願いいたします。
小倉委員長	本日の議事につきましては、全て終了いたしました。 皆様の御協力により議事がスムーズに進行いたしましたことに御礼を申し上げ、議長のを役を解かせていただきます。
横山主幹	4 閉会
会議の内容に相違ないことを証するため、ここに署名します。（注） 令和 3 年 1 月 8 日 署名 <u>小倉 和夫</u>	